

1. 都ぞ弥生 (やよい)、紫雲 (しうん) 流れ
花の香 (か) 一面に広がり、宴 (うたげ) の庭は湧きかえる
花は色とりどりに咲き乱れ、奢侈 (しゃし) は尽きぬ
春景色は一瞬にして、美しく咲きたる草花 (くさばな) は色褪せぬ
一場 (いちじょう) の夢、草木 (くさき) は鮮やかな緑
我が心満ち溢れ、志 (こころざし) 高き青年
群星 (ぐんせい) 煌 (きら) めき、北の果てを照らす
人の世の、清き国、心 (こころ) 憧れるところ

2. 石狩 (いしかり) の野、豊饒 (ほうじょう) の大地
天の果つるところ、雁 (かり) の群れ遠く飛び去る
羊群牧舎に帰り、無限の沈黙 (しずけさ)
黄昏は染めぬ、手稻の頂 (いただき) を
雄々しく聳える、エルムの梢
野分 (のわき) は原野を吹きぬけ、枝枝 (えだえだ) 揺れ動く
月の光輝き、屋根にこぼれ落ちぬ
遥かに遠く、巖かに仰ぎみる、北極星

3. 針葉樹林、寒月は低く垂 (た) れ
雪橇 (ゆきぞり) 凍 (こお) りて、万物は凍 (い) てつく
千千 (ちじ) に乱れる白雪 (はくせつ)、原野 (げんや) に舞う
厳冬の暁の静寂、雪片 (せっぺん) 翻 (ひるが) える
朔風は唸 (うな) り、狂えるが如く吹き荒 (すさ) ぶ
地吹雪 (じふぶき) は、雪を巻き上げからみつく
樹梢 (じゅしょう) 連綿 (れんめん) と蒼空 (そうくう) に連なり
樹樹 (きぎ) は重なり、氷雪花開く、壮麗の大地

4. 広大なりや牧場 (まきば)、陽炎立ち上 (のぼ) る
桂の新緑は春の息吹 (いぶ) き
雲雀高く飛び、延齡草の花開き
純白の花びら、風に吹かれて揺れる
今がこの時、陽 (ひ) の光り穏 (おだやか) にさす
独りそぞろ歩く、小河 (おがわ) の畔 (ほと) り

水芭蕉の花、清きこと雪の如し

春風（はるかぜ）そよぐ、この北の国に、限りなく幸（さち）あれかし

5. 朝雲（あさぐも）流れ、金色（こんじき）の輝き
東（ひんがし）の果て、果てしなき平原
山脈（やまなみ）連綿と連なり、その形状（けいじょう）玲瓏たり
白雪（はくせつ）煌（きら）めき、青紫（せいし）の光芒（こうぼう）
自然に感ずるは、その技（わざ）の匠（たくみ）さ
激情ほうはいとして、熱血は湧きかえる
遠大なる抱負を育て、我が大志（たいし）壮（さかん）なり
栄えゆく、我らが寮こそ、永（なが）き誇りなり

都ぞ弥生の注釈

1. 弥生という言葉は三月ということである。日本の陰暦三月の優雅な言い方である。中国語には弥生という言葉はない。唯三月という。
2. 石狩の野。石狩平野の事。北海道内の最大な都市ではあるが、又農業・牧畜業の地区でもある。日本語の発音は“いしかり”という。
3. 手稲山。札幌市西区に位置している。海拔 1024 米、日本語の発音は手稲山（ていねやま）という。
4. 檜の樹。日本においては檜（にれ）の木という。春檜と秋檜があり、公園の樹林とか街路樹とかに多用される。英語の発音は“エルム”という。